## 東久留米市 イオンSC誘致計画

# 不手際次々

イオンショッピングセンター（SC）の誘致計画をめぐって東久留米市が揺れている。計画に関連して市がコンサルタント業者に委託した業務の報告書をめぐり、市議会への「文書隠し」が発覚。それをきっかけに、監査委員が臨時監査に入った。市は「来年秋にも着工」との見通しを示すが、イオンは「時期を答えられる状況にない」としており、先行きの不透明感が強まっている。（松村康史）

# 着工いつ？

## 東京ウオッチ

## イオン「答えられない」

定例市議会初日の今月3日、本会議は午後11時40分まで続いた。昨年2月に提出された、コンサルタント業者の「地区計画策定業務報告書」に関する野崎重弥市長の報告で、市の不手際が次々と明るみに出たからだ。

予定地は第1種中高層住居専用地域で、特別に地区計画を定めなければ商業施設は建てられない。その地区計画案を作る業務委託で、これまで市が「受け取っていない」と答弁していた業者作成のCD－Rが、最近になって都市計画課のロッカーから見つかった。

一方で、昨年、業者に代金555万円を支払った時点で、受領しているべき文書の一部や電子データが納品されていなかったこともわかった。監査委員は、これが不適切な公金支出にあたるとみて調べている。

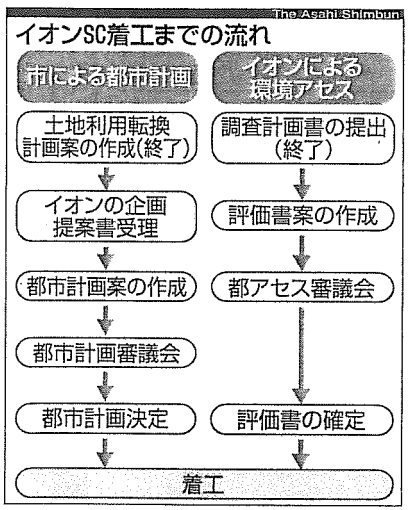
出店計画では現在、イオンが都条例に基づいて行う環境影響評価（環境アセス）の手続きと市による地区計画の都市計画決定に向けた手続きが並行して進められている。

市議会で今後の見通しを問われた市幹部は「仮に来年5～6月に都のアセス審議会の答申が出て、順当に行けば市の都市計画審議会の答申が7～8月。それ以降、建築確認（着工）となる」と答弁した。しかし、都のアセス担当者はこの見通しに首をかしげる。

そもそもイオンは、アセス手続きの中心となる評価書案をまだ都に提出していない。都環境影響評価課によると「（仮にまもなく提出されても）イオンのような関心の高い計画には多数の住民意見が寄せられる。事業者がそれに対する見解書をまとめるだけでも数カ月はかかる」。「5～6月にアセスの答申」は非常に難しいという見方だ。

市内では商店街などに計画に反対する団体が作った「イオンいらない」のポスターが目立ち始めた。商工会がまとめた調査で「イオン出店で売り上げが85%減る商店街がある」との結果が出たことで、危機感が強まった。

イオン本社（千葉市）では「反対運動は承知しているが、出店の意向に変わりはない」としつつ、アセスの見通しや着工・開店時期については「調整中で答えられない」と言うばかりだ。




議場にパソコンを持ち込み、担当課にあったというCD－Rの中身を確認する市議ら＝3日、東久留米市議会で